

生横濱

おつとめ

教祖ひながたの道と「おつとめ」の完成

立教185年10月26日の『論達第4号』ご發布と共に始まった教祖百四十年祭の年祭活動も、残すところ半年強となりました。教祖50年のひながたの道の最後は「おつとめの完成」でした。その「おつとめ」についてはこれまで何度かお伝えしてきましたが、今回は、より深くご理解いただくため、少し違った側面からお話したいと思えます。

立教188年
7月号
(通算第293号)

発行者
天理教生横濱分教会

高齢での創作活動という「驚異」

「おつとめ」は陽気ぐらしのために、親神様からお教えいただいたものであり、そのすべてが教祖お一人を通して伝えられたものであると私たちは信じています。その教祖が、いかに計り知れないご苦労とご尽力をされたか、その驚くべき側面を改めて考えてみたいと思います。

教祖が「おつとめ」の歌と手振りを本格的に教え始められたのは、慶応2年（西暦1866年）のことです。この時、教祖

は68歳でいらっしやいました。当時としては、まさに「高齢」と呼ぶにふさわしい年齢です。現代においても、68歳から新しい創作活動、しかもこれほど多岐にわたる活動を始める方はほとんどいらっしやらないでしょう。しかし、教祖はそこから明治15年に一通りの完成に至るまでの約17年間もの長きにわたり、私たちに「おつとめ」を伝え続けてくださいました。

作詞・作曲・演奏・舞…すべてを自ら

私たちは、まさしく「おつとめ」と捉えています。現代風に砕いて考えてみますと、そこには「作詞」「作曲」「演奏」「舞（ダンス）」という、あら

ゆるクリエイティブ（創造的）な要素が組み込まれています。

さらに具体的に見てみましょう。親神様の陽気ぐらしへ導く深遠な教えが込められた歌詞（みかぐらうた）があり、その教えを心に響かせ、私たちを勇ませる旋律（作曲）があります。そして、笛、ちゃんぽん、拍子木、太鼓、すりがね、小鼓、琴、三味線、胡弓といった九つの鳴り物を用いた演奏、その上、親神様のご守護を手振りに体现するおてふり（舞・ダンス）があります。

それらがすべて一体となって表現されるのが、陽気ぐら

しへのおつとめです。そして、そのすべてを、教祖が私たちにお一人で教えてくださったのです。この事実、皆さまは「凄い」と思われませんか？



手取り足取りの「ひながた」

では、教祖はどのようなしでこれらの教えを伝えられたのでしょうか。『天理教教典』

『稿本天理教教祖傳』『稿本天理教教祖傳逸話篇』などに具体的に書かれておりますので、どうぞお時間のある時にじっくりとお読みいただければと思います。たとえば、

教祖は、「習いにやるのでもなければ、教えに来てもらうのでもないで。この屋敷から教え出すものばかりや。世界から教えてもらうものは、何もない。この屋敷から教え出すので、理があるのや。」と、仰せられ、御自身で手を取って、直き直きお教え下されたのが、おつとめの三味線である。（逸話篇53「この屋敷から」）

教祖は、『正月、一つや、二つやと、子供が羽根をつくようなものや。』と、言うて、お教え下されました。（逸話篇19「子供が羽を」）

情景が目には浮かびます。

教祖が示された希望の「ひながた」

教祖が現身を隠されるまで示されたこの驚異的なひながたは、私たちに大きなメッセージを投げかけています。それは、年齢や置かれた状況に関わらず、本当に大切なこと、人のためになることには、どこまでも力を尽くすことができるといふ希望です。そして、何よりも、私たち人類の幸せ

を願う親神様と、その教えを身を挺して伝え続けてくださった教祖への、尽きることのない感謝の心を、改めて強く抱かせてくれます。

この素晴らしい「おつとめ」を、私たちが日々感謝をもつて勤めさせていただくことが、教祖の親心に応え、陽気ぐらしの世界を築くことにつながると信じます。

年祭のその日まで残された時間はそう多くありません。しかし、まだまだ出来ることはたくさんあると思います。どうぞ勇んでお通りください。

※参考資料※

明治時代初期（1870年代）の平均寿命は男性で約35歳、女性

で約37歳であったとされています。これは、当時の医学の未発達、公衆衛生の状況、乳幼児死亡率の高さなどが影響していました。

夫善兵衛さはま嘉永6年に66歳で出直された。



ご報告

・山下綾さんがようばくに

6月15日、山下綾さんがおさづけの理を拝戴し、ようばくになられました。



・おぢばがえり

6月のご本部月次祭には4名で帰らせていただくことができました。

中には、術後間もない方もいらっしゃいましたが、充分におぢばの理を頂戴し、元気に帰ってくることができました。



・学生生徒修養会の事前研修

6月27日～29日の三日間、おぢばで行われた学生生徒修養会高校生の部の事前研修に、佐々木匡理と佐々木佑人が参加させていただき、夏の本期間に向けて勉強させていただきました。

・kitchenあんどれり

7月5日、教会においてフーdpantトリーが開催されました。



兵神大教会

教祖140年祭 年祭活動の方針



教祖のひながたを手本に 「明るい心」で通りきろう

【実践目標】

一、身上おたすけ

身上のたすかりを願って動き、
親神様・教祖のお働きをお見せ頂こう

一、人だすけ

人のたすかりのために自分の時間を使おう

お知らせ

・佐々木かおるの教養掛

会長夫人が8月の教養掛の御用を頂戴しましたので、7月21日～8月28日までの1カ月強、おぢばに伏せ込まれます。

その期間、教会が手薄になりますのでご迷惑、ご不便をおかけすることが多々あるかと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

・御霊祭、月次祭のお願い

右記にあるように8月の御霊祭、月次祭は手薄になります。

お手すきの方はどうぞ準備等お手伝いくださいますようお願いいたします。

お時間がある方はどうぞご参加ください。



6月21日はフードパントリー
7月5日は子ども食堂・フード
パントリーを教会で開催させて
いただきます。



どうぞ今から予定を空けていただき、皆揃っておやさまにご挨拶申し上げたいと思います。

団参加申込フォーム↑



11月	7日	6日		3日	1日	8月	28日	27日	26日	23日	16日	13日		11日	7月
生横濱月次祭	比企家講社祭	太田家講社祭	支部ひのきしん	邦明家講社祭	生旭月次祭	御靈祭	支部ひのきしん	康靖家講社祭	ご本部月次祭	大教会月次祭	上級月次祭	雅敏家講社祭	益元家講社祭	生横濱月次祭	

今月の予定

立教百八十八年六月月次祭祭文

おて合の何べく励き力年私さ様に子御わんり一今にま持親りぐ表旬親慎天こ
 願替い人卒くのままを目共いを御供前せでおつかおすち神がらに刻神ん理れ
 いわ助々至動道せす重もこまお礼たにてつ教にら許が場様たしお限様で王の
 申しけがら員のて「ねはのす受申しはいとえ揃おし、教くへ現のに申命神
 しま合元ぬにこい身さや道よけしが今ためいえついそ立祖、とれ到は、上の床
 上すうの所尽どた上せ半にう取上、日ださたてとたの場の勿おに来、上御に
 げよ陽親は力もだおてばつおりげ共のきせだ親めだ中の親体導なと世界一す
 まう氣を幾さ達きたいをな願下、に日まてい神奉いに御心なきり共、に
 すごづ知重せと、すた迎がいさ尚おをすいた様仕たも用にい極さた、れ
 。守くりにて共迎けだえる申しも歌樂。た。おの者定今に添わみいす教つをたすけ
 護め教もいにえ「き、よしま変をし。だつ心参め日勤。せでますけ祖をやす
 ののえおたおる、「改う上しわ唱み。きとと拝ののめ。てごす一条の道をし
 程世の仕だち年人大めぼげてら和に、め一者日吉励ま。いた。慈愛のをとし
 をの理込くば祭だ教てくま、ぬし、。月真に同に日は、いる。私共は、誠、の
 、様に下所へ当す会心一す。親。て寄。り。神守、り。様護日集。にに頃い。も
 一に。覚いでらに「りめは、。月。の。劍な呼あは、いた。だ。次。且。る。を。り。こ。た。だ。う。心。が。け。日。々。あ。気。の
 同。一。め。ま。ご。せ。は。の。お。完。に。に。頃。い。も。お。賜。ま。し。御。た。り。に。祖。心。で。の。お。け。日。々。あ。気。の
 共。日。て。し。ぎ。て。一。上。示。遂。年。祭。活。動。三。下。る。恩。の
 にも互ていいたでついで多めだ努三
 慎早い、ます。だもとたに動
 んく立世す。く多めだ努三
 で立て界。く多めだ努三

胡弓	三味線	小琴	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぼん	笛	ておどり	役割	献饌	指図	賛者	扨者	祭主
勝田好子	佐々木千鶴		比企靖章	佐々木佑人		真下ゆきこ		佐々木和代	前会長夫人	佐々木邦明	真下育久	比企靖章	佐々木邦明	会
勝田好子	真下ゆきこ		前会長夫人	真下育久		佐々木佑人		佐々木千鶴	佐々木和代	佐々木雅敏	比企靖章	佐々木佑人	佐々木雅敏	
勝田好子	真下ゆきこ		前会長夫人	佐々木邦明		真下育久		佐々木千鶴	佐々木和代	佐々木雅敏	佐々木佑人	比企靖章	佐々木雅敏	伝供

祭典役割

教祖百四十年祭

関東兵神会決起の集い

～さあおちばへ～

教祖140年祭の年祭当日は

「教祖殿で教祖にご挨拶をさせていただきます」

との兵神大教会からのお打ち出しを受けて

関東兵神会としましても一人でも多くの方にお帰り頂きたいと
大教会長様、奥様ご参会のもと「決起の集い」を開催致します

— 記 —

日時：立教188年9月7日（日）

10:45～15:00（受付10:15）

場所：東京教務支庁

（東京都豊島区駒込7丁目1-4）

内容：・おつとめ

・グループワーク

・講話



申込QRコード

編集 後記

皆さまこんにちは。

夏の日差しに照りつけられ、肌がこんがりと美味しそうに焼けてきました。

最近、さんげをしたことで、状況が良い方向に大きく変わり、神様の存在を感じた瞬間がありました。

古くから仏教やキリスト教には、罪を告白して許しを請う「懺悔（さんげ）」があります。天理教では「さんげ」と呼び、ただ許しを請うだけでなく、反省し心を改め、これからの歩み方、考え方を定めたことを神様、また周りの人に伝えることを指します。

さんげと言っても大事では無く、日々のおつとめではこりを反省することもさんげの一つなのかもしれません。ただ反省するだけではなく、日々の通り方も同時に考えられたら最高ですね。

佑人